



輝く恵那人

特別号

市外で活躍する恵那市出身の方を紹介します。

三郷町出身

可知 ^{りんか} 凛花さん (38歳)

□プロフィール

書道家・水墨画家。
6歳で書道を習い始め、19歳で師範を取得。現在は作品制作の他、書道教室や水墨画教室など、幅広く活動している。
令和5年度より恵那観光大使に任命。



▲「my dressing room」
『日本画全国公募「第9回前田青邨記念大賞展」』（中津川市主催）で初出展・初入賞した作品。



多くの人に作品を届けたい

5月9日、市役所前で「恵那の里みのりまつり」プリントトラック披露・出発式が行われた。これは祭りを観光資源としてPRするために制作されたもので、トラックに描かれている書と絵を制作したのは、三郷町出身の可知凛花さんだ。可知さんは「次米のお祭りをいろんな人に知ってほしい。インパクトを出し、人に伝わることを大切に制作した」と笑顔で語る。



▲プリントトラック披露・出発式にて

可知さんの水墨画との出会いは、偶然立ち寄った店で行われていた水墨画の展示会。すぐ心を奪われ、水墨画サークルに入会した。30歳で独立した当初は書道教室をやりたいという気持ち

があり、水墨画は趣味程度だと考えていた。しかし依頼を受けて絵を描くと、みんな喜んでくれた。その笑顔がうれしくて、仕事として水墨画の制作にも力を入れていくようになった。
2020年には、栃木県那須塩原市にあるホテル「塩の湯温泉蓮月」からの依頼で、ホテルに飾る約70点の作品を制作することになった。何度も打ち合わせを行い、どんな作品を描こうかを考えたが、要望通りの作品を制作することは大変だった。制作は約2年を要し、やり切ったときは達成感でいっぱいだった。「絵を見るために泊まる人もいることを聞き、頑張っただけ良かった」と振り返る。
「依頼者の気持ちに答えられるよう、100%の力を出し切りたい。書や水墨画の新しい一面を見せられるような作品を制作したい」と話す可知さんは、今後も多くの人に作品を届けられるよう制作を続けていく。

4/12

歌舞伎小屋「五毛座」がリニューアル



五毛座（飯地町）の大規模改修が完了し、記念式典が開催されました。式典の後には、こけら落とし公演として、歌舞伎俳優の中村勘九郎さん、中村七之助さん、恵那観光大使の中村いてうさんらによる公演も行われ、観客は新しくなった五毛座で歌舞伎鑑賞を楽しみました。

4/12

飯地町でスマートスピーカーの実証実験を開始



飯地町で、人口減少などによるコミュニティ維持の課題に対応するため、スマートスピーカー活用事業の開始式が行われました。スマートスピーカーで、市からの情報配信や高齢者の見守りなどを行うことにより、安心安全な暮らしを目指します。

4/18

恵那のまつり太鼓が県芸術文化奨励を受賞



恵那のまつり太鼓が県芸術文化奨励を受賞し、市長に喜びの報告を行いました。この賞は芸術文化の顕著な業績と活動実績を収め、将来その成果が期待できる個人や団体を奨励するものです。報告会の後には、恵那のまつり太鼓メンバーによる太鼓の演奏が盛大に行われました。

4/17

東野小学校が被災地支援のため義援金を送る



東野小学校児童会は、能登半島地震で被災した方への支援のため、日本赤十字社岐阜県支部に義援金を送りました。児童会長の青木香里南さんと副会長の西尾有叶さんは「被災地で役立ててほしい。被災されて大変な人たちの分まで学校生活を頑張りたい」と話しました。

4/25

技能五輪全国大会で金賞を受賞



第61回技能五輪全国大会の曲げ板金職種で、(株)デンソー所属の三浦佑真さん（武並町出身）が金賞を受賞し、市長に喜びの報告を行いました。今大会の課題はピザ窯で、三浦さんは「何度も試作を作り、傷がつかないように外観にこだわった」と振り返りました。

4/21

恵那峡ハーフマラソンで健脚を競う



第21回恵那峡ハーフマラソンが開催され、2,285人のランナーが春を楽しみながら、起伏に富んだコースを駆け抜けました。中学生女子の部で優勝した堀愛那さん（明智町）は「最後の坂がきつかったけれど、無心で走りました」と笑顔で話しました。